|  |  |
| --- | --- |
| タイトル | マニュアル作成に生成AIは使えるのか？ |
| キーワード | **生成AI** |
| 執筆者 | 重岡 |
| メタディスクリプション  ※検索時に出る解説文  （3行：120文字以内　序章を短縮させるとよい） |  |
| ■見出し１ |  |
| ■見出し２ |  |
| ■見出し３ |  |
| ■見出し４ |  |
| ブログの書き方  ルール | タイトル　→　「キーワード　〇〇」を**タイトルの最初に**入れること  ★序章　→　本ブログを読んでもらえるかどうかここで決まる、**イントロ。**  ■見出し→**「キーワード　〇〇」**を入れる**目標：半分以上**（見出し４つなら２つ以上）  本文　　　→　※見出しに合った内容であること  ※画面サンプルや図表は自由にいれてよい（わかりやすくなるので入れた方がいい） |
| ブログ文字数：目標 | ※上記までの約500文字は左下の文字合計マイナスすること。  ※ブログ目標文字数　2500文字から3000文字 |

■序章

■見出し１

■見出し２

■見出し３

■見出し４

■序章

分からないことがあれば検索エンジンで調べると思います。しかし、近年では、検索エンジンを使わずに、生成AIで調べている人も増えているはずです。生成AIは文章作成だけでなく、画像の作成や分析、動画、音楽生成まで作成できます。

そんな便利なツールである生成AIはマニュアル作成に使用することはできるか紹介します。

■第１章 ChatGPTについて

第１章では、生成AI(主にChatGPT)について紹介します。

生成AIを使用したことはありますか。生成AIが現在では、誰でも簡単に使えます。ログインの必要もなく、ゲストの状態で使用できます。

生成AIという言葉が広がったのは、OpenAI社が開発したChatGPTではないでしょうか。

では、ChatGPTはいつ誕生したのでしょうか。

ChatGPTに質問してみました。

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション, メール

自動的に生成された説明

2022年にリリースされたため、ChatGPTを使ったことがない人もいるはずです。

しかし、ChatGPTを使ったことがない人でもGoogleで検索すると、一番上にAIアシスト(Gemini)の回答が表示されるのを見たことがあるのではないでしょうか。

また、Edgeを使っている人であれば、AIアシスト(Copilot)の回答を目にしたことがあると思います。これまでは記事を押すことで情報を探していましたが、現在では、AIアシストが回答してくれます。AIというと馴染みがないように思いますが、意外と目にしていることに気付いたと思います。

学校によっては、ChatGPTの使用の禁止や規制をかけている学校もあります。海外の大学では、レポートにChatGPTを使用し、まるで人間のようなスペルミスをした文章をChatGPTが作成していたことは代表的な例ですね。

また、生成AIに2025年度の共通テストの英語（リーディングとリスニング）、国語、数学（数学I、数学Aと数学Ⅱ、数学B、数学C）、社会（歴史総合、世界史探究と歴史総合、日本史探究）、理科基礎（地学基礎と生物基礎）、情報Iの6教科8科目を解かせたところ9割超の得点率でした。

参考リンク:<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03078/012800002/>

2025年の共通テストから分かることは、生成AIは問題を読んで理解する点です。

そんな生成AIをマニュアル作成に使えるでしょうか。第２章で紹介していきます。

■第２章　生成AIを使用するメリット

生成AIを活用してマニュアル作成できるでしょうか。

では、マニュアル作成で生成ＡＩを使用することのメリットを挙げてみます。

**メリット**

**・時間の短縮  
・下書きの作成**

**・誤字・脱字チェック**

**・多言語に対応できる**

**-時間の短縮**

文章の作成や画像の作成がすぐにできます。

-**下書きの作成**

作成したいキーワードを指示することで文章の作成をすることができます。

**-誤字・脱字チェック**

人の目でチェックすると時間が掛かりますが、生成AIを使用することで大幅に時間を短縮できます。

**-多言語に対応できる**

生成AIで主要な国際言語であれば翻訳できます。

生成AIを使用することの一番のメリットは時間を短縮できる点です。文章作成や文章の誤字脱字チェックです。人の目では１ページずつチェックしていきますが、生成AIを使用することで、数十ページをすぐにチェックできます。生成AIを使用して作業が短縮することは可能ですね。

しかし、マニュアル作成において生成AIを使用できない部分もあります。

次の章では、マニュアル作成に生成AIが使えない理由を紹介しきます。

■第３章　マニュアル作成に生成AIが使えない理由

マニュアルには作業手順から注意事項まで詳細な情報が載っています。

生成AIが製品の全てを理解することは難しいです。

生成AIのデメリットを挙げてみます。

**デメリット**

**・機密情報を使えない**

**・正確性に不安がある**

**・専門用語やシステムの細かい仕様に対応できない**

**・ただの文章の羅列になる**

-**機密情報を使えない**

セキュリティ上、機密情報や個人情報を扱うことはできません。

**-正確性に不安がある**

正確性が求められる医療関係については必ず専門家のチェックが必要となります。

また、製品の注意事項や安全事項についても同様です。

**-専門用語やシステムの細かい仕様に対応できない**

特定の業界だけで使用されている用語、システムの仕様については対応できない場合があります。

**-ただの文章の羅列になる**

生成AIが書いた文章ではニュアンスが伝わらないこともあり、人の手でチェックする必要があります。

生成AIの一番のデメリットは機密情報を使えない点にあります。発売予定の製品が発売するよりも前に製品情報が漏れてしまうケースがあります。また、注意事項や安全事項についても、全てをカバーすることはできません。マニュアルはユーザを守るためにあります。

ユーザに怪我をさせないためにも危険個所等は人間で確認する必要があります。

■第4章

機密情報でない場合には生成AIを使用し、誤字脱字チェックをすることで作業の短縮が可能となります。

ダイテックでは製造業のマニュアル作成改善を検討する際に、考慮すべきポイントをまとめた入門資料「安心と安全をカバーするマニュアルづくり　３つのポイント」「なぜ読むマニュアルから『見る3Dマニュアル』が増えているのか？わかるガイド」をご用意しました。本資料は、マニュアル作成改善をしたい方には必見の資料です。ぜひダウンロードいただき、ご覧ください。